

お 名 前	性 別	満年齢	終戦時の年齢	現 住 所
中根 藤子 なかね ふじこ	女 性	84歳	19歳	富岡中部

① 8月15日は、どこでどんなことをしていましたか。

浜松市の浜北区の貴布祢にある、兵隊さんの服を作る織物工場にいました。
大きな工場で、寮は21もありました。

② 終戦のことを、どこで、どのように聞かれましたか。

会社の寮のラジオで、みんなで聞きました。

③ 敗戦を知らされた時の気持ちやその時の様子

やっと終わった、というのが正直な気持ちです。

④ 体験の中で、子どもたちに語り伝えておきたいこと

「浜松の艦砲射撃と空襲」

浜松には軍需工場がたくさんあったので、何回も空襲を受けています。特にひどかったのは、昭和20年6月18日の空襲です。浜松市は海に近いので、遠州灘の軍艦から艦砲射撃があり、浜松駅や周辺が攻撃されました。ものすごい数のB29が編隊を組み、爆弾や焼夷弾を落としました。

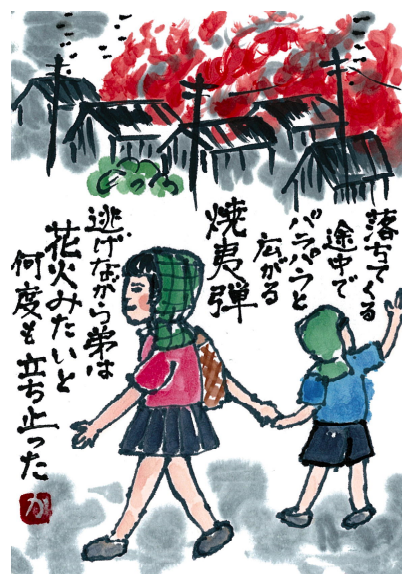
夜だったので、真っ赤な大きな火の玉が、まるで花火のように「シャー、シャー」と、音を立てて降ってきました。私たちは、最初はたこつぼ*1に入りました。

それでも、浜松の中心部から少し離れていたもので、近くには爆弾は落ちませんでした。私たちは、防空ずきんをかぶり、着るものと毛布を持って山へ逃げました。どこの山なのかよく覚えていませんが、必死に走って逃げました。火の玉に背中を押されるように、走りました。

山に着くと、側溝が掘ってあって、そこに大勢の人がいました。浜松の市街が燃え上がり、空が一面、黒い煙と炎で染まっていました。それでも爆弾はどんどん落とされます。浜松の中心は、あっという間に焼け野原になりました。私たちは、身をすくめたまま一夜を過ごしました。

翌日も空襲警報は続きました。攻撃がおさまリ、夕方になって工場へ戻りました。工場の周辺は爆撃からのがれ、無事に残っていました。

他の人から聞いた話では、浜松の中心は焼け野原で、駅の周辺は死体が山と積まれているということでした。爆弾による8畳ぐらいの大きな穴があちこ



▲提供：中日新聞ほのぼの絵手紙

*1 自分一人が入れる1m四方ぐらいの大きさで、フタもない。爆風を防ぐためだけの小さな穴のこと。

ちにあっており、死がいの悪臭^{あくしゅう}でとても行けたものではないということでした。
私は、いつまでたってもB29の音が耳から離れませんでした。

20年6月19日の新聞記事

浜松空襲^{はままつくうしゅう}後の新聞記事です。とても小さなあつかいで、2面に掲載^{けいさい}されていました。内容は、「マリアナ基地の敵B29約80機は、6月18日零時40分頃より志摩半島南岸より侵入^{しん}、約50機は渥美半島を経て東進し、浜松市付近を1時間にわたり焼夷攻撃^{しょうぎこうげき}を行いたる後、おおむね2時過ぎごろまでに南方海上に脱却^{だつせき}。これがため、浜松市内各所に火災を発生したが、おおむね5時半頃までに鎮火。本空襲による被害は調査中なり」となっている。

濱松、四日市へ八十機

九州(大牟田、門、鹿児島)へも約百機

西郷軍司令部発表(六月十八日十時)

一、マリアナ基地の敵B29約80機は六月十七日二十三時ごろより十八日四時二十分ごろまでの間、一部をもつて開地島ならびに隠見島市附近に、主力をもつて大牟田市附近に侵入、開地島には機雷を投下、隠見島市、大牟田市附近には主として焼夷弾による攻撃を果行せり

一、大牟田市、隠見島市およびその附近に火災発生せるも軍官民の敗戦により十八日六時ごろまでには概ね鎮火せり、重要施設の被害鮮微なり(福岡)

東郷軍司令部発表(昭和二十年六月十八日十三時)「マリアナ基地の敵B29約八十機は六月十八日零時四十分ごろより志摩半島南岸より侵入、渥美伊勢湾口附近にて暴発後、その前半約五十機は遠く

美半島を経て東進し浜松市附近を一時にわたり焼夷攻撃を行いたる後、概ね二時過ぎごろまでに東郷軍州離および駿河湾附近より南方海上に脱去

さらに後半約三十機は伊勢湾および知多半島中部を経て西北進し四日市附近を焼夷攻撃の後津及び松阪方面を、一部は伊賀上野方面を経て三時半ごろ南方に脱去

この間敵機は南方面とも終始一機

または少数機をもつて新橋的行動せり、これがため浜松および四日市内各所に火災を発生せるも概ね五時半ごろまでに鎮火せり、本空襲による両市の被害は調査中なり(名古屋)

房州沖にB24二機

B24二機は十八日午前十二時二十分ごろ千葉縣江見町地先海岸に飛来、沖合を航行中の貨物船を攻撃、撃沈した(福岡)

伊豆半島へも初夜襲

十八日午前一時頃敵B24二機は超低空で伊豆半島に侵入、海岸および山間部に焼夷弾を投下して脱去したが被害は鮮微、なほB24の夜間襲撃は最初である(下田)

記録によると、浜松市は二十七回に及ぶ艦砲射撃と空襲を受けています。最も被害が大きかったのが、昭和二十年六月一日の深夜から朝方にかけての空襲です。アメリカ軍のB29による大空襲・爆撃により、浜松市は一面焼け野原となりました。犠牲者は二、九四七人にのぼりました。